

「薬物」をきちんと理解して自分を守ろう！

最近、大学生が自宅で大麻を栽培、使用し逮捕されるという事件が起こりました。薬物は自分に関係ないと思っけていても、薬物乱用は現実的で、すぐそこにある身近な問題なのです。

[薬物乱用とは？]

「薬物乱用」とは、病気を治すというもともとの目的からはずれて医薬品を使うこと、また、病気を治すことには関係のない薬物を、遊び目的や気分や感覚を変えるために、不正に使うことをいいます。たとえば、シンナーは、ペンキをうすめるために使うものですが、そうした本来の目的以外に使うと「乱用」になります。また、一度でも使うと乱用になります。

[法的処罰]

一般に麻薬と呼ばれるものや覚せい剤等の、所持、使用、売買、製造、などが日本は勿論、多くの外国で刑事法的処罰の対象となっています。学生を含む大学関係者がそれらの行為を行った場合、なおその上に大学の厳しい処分が課せられます。

[乱用される薬物]

乱用される危険性のある薬物は ころろ すなわち精神に影響を与える作用をもっており、中枢神経を興奮させたり抑制したりして、多幸感、爽快感、酩酊、不安の除去、知覚の変容、幻覚などをもたらす働きがある。

- ・ アヘン類 : ヘロイン、塩酸モルヒネ
- ・ 大麻類 : マリファナ、ハッシュ
- ・ 鎮静剤または催眠剤
- ・ コカイン
- ・ カフェイン
- ・ アンフェタミン<覚せい剤乱用>その他の興奮剤
- ・ 幻覚剤 : LSD、メスカリン、MDMA
- ・ 揮発性溶剤: トルエン、及びその他の精神作用物質
- ・ 2C B (新規制薬物)

その他H14年から幻覚性きのこ(マジックマッシュルーム)が麻薬に指定され、これを所持したり、使用したりする事が法律で禁止されました。

また、若い人達が覚せい剤の事を「エス」「スピード」と耳触りのよいいろいろな俗称で呼ばれると、薬物とは違うかっこいい遊びだと思ひこんでしまうことがあります。いろいろな言葉に惑わされないような知識を持ちましょう。



[始めるきっかけ]

日常生活の中に薬物乱用への誘惑が存在しています。薬物乱用を始めるきっかけは、快感への追求、好奇心といったものがほとんど思われていますが、それだけではありません。

「やせられる」「自信がつく」「充実感がある」「スカッとする」「元気がでる」といった誘い言葉についのせられ、危険な薬物とは知らずに手をだしてしまうケースもあるのです。

遊び友達、昔の同級生、職場の仲間など、ちょっと見たところ、信頼のおける身近な人からすすめられ、いつのまにか薬物乱用に染まってしまう場合もあります。また、偶然の出会いも多く、とくに未成年者の場合、たまたま行った友人宅のパーティーでシンナーやマリファナと出会い、その後乱用をくりかえすといったケースがよくみられます。

今回は「大麻」について詳しくお話します。

大麻とはクワ科の1年草で中央アジア原産の植物です。古代から繊維用として栽培されてきました。この植物にはTHCという成分が含まれており、葉などをあぶってその煙を吸うと酩酊感、陶酔感、幻覚作用などがもたらされます。現在では世界のほとんどで麻薬として規制され、所持しているだけでも死刑や無期懲役となる場合もあるほどです。

[症状]

大麻はどんな形のものにせよ、心身に有害です。通常認められる身体症状のいくつかを挙げてみると、

心拍数を上昇させ、目を充血させ、口や喉の湯きを感じさせ、食欲を増進させる。
短時間の記憶力や理解力の低下や時間感覚に変調をきたす。

車の運転などのように、身体各器官の調整や神経の集中を要求するような仕事を行う能力が低下する。

- * 研究結果によると、学生が(大麻で)「ハイな状態」(恍惚状態)になっているときには、知識を記憶できない。動因(motivation。心理学用語で欲求の満足や目標の達成に向けられる行動を抑制する力の総称)や認識に異常を来し、知識の新たな吸収を困難にする。

気管支や喉を痛める

免疫力の低下や白血球の減少

「大麻精神病」と呼ばれる独特の妄想や異常行動、思考力低下などを引き起こす。

- * 乱用を止めてもフラッシュバックという後遺症が長期にわたって残るため軽い気持ちで始めたつもりが一生の問題となってしまう。

また、煙に直接接触している部位以外にも様々な危険が存在する。心拍数が50%も増加

し、これが原因となって脳細胞相互の伝達に重要な役割を持つ小さな髪の毛状に長く伸びた脳細胞の細胞膜を傷つけ、脳障害が発生する。さらに有害物質はその他の脳細胞にも蓄積される。一度壊れた脳は元にはもどらない！！



[年齢別検挙者数の割合]

大麻の年齢別検挙者の割合では 10 代、20 代の若者が多く全体の約 4 割を占める。

[最後に・・・]

薬物（ドラッグ）の誘いのワナは身近なところに潜んでいます。そうしたワナに引っかからないためには、薬物（ドラッグ）に対する正しい知識をもち、自分で良いことや悪いことかを決めなくてはなりません。そして、友達や先輩に誘われてなんとなくおもしろそうだから、などという理由でうっかり手を出してしまわないためにも、将来の皆さんの夢を実現するためにも、自分のことをよく知り、自分を大切にする気持ちを持ちましょう。